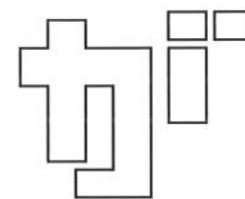




近藤良平  
Kondo Ryohei  
森下真樹  
Morishita Maki



マウゴジャータ・マルヴィーナ・ニェスポジヴァーナ  
Malgorzata Malwina Niespodziewana  
マルタ・ユゼフィーナ・ボジック  
Marta Józefina Bozyk  
エヴァ・ロシエック・ブシュコ  
Ewa Rosiek-Buszek



アートまるケ...ト

2020.3.3 Tue. — 6.14 Sun.



時代を牽引する4名が  
1人のダンサーを通して  
描き出す  
「運命」の世界

ベートーヴェン  
交響曲第5番  
『運命』  
全楽章を踊る

3月20日(金・祝)  
3月21日(土)

開演時間  
各14時

出演  
森下真樹

振付

MIKIKO (演出振付家)  
森山未来 (俳優・ダンサー)  
石川直樹 (写真家)  
笠井叡 (舞踏家・振付家)

# アートまるケット

## アーティストが ワタシントコに やって来た!

### 岐阜県の滞在制作レビュー

2020年3月3日(火)ー6月14日(日)

会場／岐阜県美術館 展示室2

休館日／毎週月曜日(月曜が祝日の場合は翌平日)

※会期中の3月23日(月)から4月9日(木)まで  
臨時休館いたします。

夜間開館日／3月20日(金・祝)、4月17日(金)、

5月15日(金)は20:00まで開館  
(入場は19:30まで)

開館時間／10:00ー18:00(入場は17:30まで)

観覧料／一般340[280]円、大学生220[160]円、

高校生以下無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方およびその付き添いの方(1名まで)は観覧無料。  
※展示室1で開催される「カラー・マジック」(1月9日ー3月22日)および「春の名品展(仮)」(4月10日ー6月14日)と共通料金。  
※[]内は20名以上の団体料金。

#### 交通案内

■公共交通機関ご利用の場合  
・JR東海道本線西岐阜駅 南口から南東へ徒歩約15分  
・岐阜バス(岐阜市橋線):JR岐阜駅前[6番乗場]・名鉄岐阜駅前[1番乗場]で「市橋」行きに乗車[約15分]「県美術館」下車  
・岐阜市コミュニティバス「県図書館・美術館」下車  
西ぎふ・くるくるバス[1日7便、市橋地区循環]JR西岐阜駅南口から乗車[約5分、復路約30分]ノすまいるバス[1日8便、三里・本荘地区循環]

■タクシーご利用の場合  
JR東海道本線岐阜駅および名鉄岐阜駅から乗車[約10分]

■自家用車ご利用の場合  
・名神高速道路 岐阜羽島ICから県庁方面へ北進 約10km  
・東海北陸自動車道 岐阜各務原ICから国道21号線を西進 約10km

■駐車場のご案内  
図書館地下・地上駐車場、東駐車場、西駐車場をご利用ください[無料]  
車いすをご使用の場合は、おもいやり駐車場をご利用ください[無料]



### 「アートまるケット」とは?

岐阜の言葉で「…だらけ」「…まみれ」を意味する「…まるけ」と、市場を意味する「マーケット」「マルシェ」にかけた造語で、岐阜をアートでいっぱいにして、人々が集い、交流するきっかけをつくらうとするシリーズ企画です。

アートまるケット第5回目となる本年度は、岐阜県内でのアーティスト・イン・レジデンス(滞在制作)事業および施設を調査し紹介します。会期中に各施設からゲストをお招きし、それぞれのレジデンス事業についてお話しいただきます。

展示室では各施設の紹介に加えて、ポーランドの作家3人の作品をご覧ください。彼女たちは「美濃・紙の芸術村」に別々の年に参加し、その後も美濃との交流を持ち続け、2019年にポーランドにある日本美術技術博物館 "Manggha" で和紙を使った展覧会を開催しました。

関連企画として、可児市文化創造センター(ala)で開催している「市民参加プロジェクト<オーケストラで踊ろう!>」に招聘された振付家によるイベントを行います。一人目はコンドルズ主宰の近藤良平が登場します。二人目には森下真樹がソロのダンス作品『運命』を公演します。招聘されてきた振付家たちは4、50人もの市民ダンサーに振付をして、同センターのオーケストラによる演奏に合わせた、壮大な舞台を実現してきました。

本展では、アーティストたちが私たちの地域にやってきて一緒に制作してきた施設とその活動が生み出す魅力を紹介します。

会期中の主な催し物 ※詳細やその他の催し物については岐阜県美術館ウェブサイトをご確認ください。

以下全て会場は、岐阜県美術館 多目的ホール。事前申込み不要、無料。

#### ぎふ レジデンス シンポジウム

〈第1回〉3月7日(土) 15:00ー16:30

参加団体: 東座AIR、飛騨の森でクマは踊る(Hidakuma)、美濃・紙の芸術村(現・Mino Art Info)

〈第2回〉4月26日(日) 14:00ー15:30

参加団体: GIDS(Gifu Indie Design Sessions)、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)、美濃加茂市民ミュージアム

#### 近藤良平(コンドルズ主宰) 登場

3月7日(土) 開催時間: 13:00ー14:30 ※参加される方は、動きやすい格好でお越しください。

#### 森下真樹「ベートーヴェン交響曲第5番『運命』全楽章を踊る」

振付: 第1楽章 MIKIKO 第2楽章 森山未来 第3楽章 石川直樹 第4楽章 笠井毅

3月20日(金・祝)、21日(土) 公演時間: 各14:00ー15:00

3月21日(土) アフタートーク ゲスト: 衛紀生(可児市民文化創造センター(ala)館長)

#### パイプオルガン定期演奏会

3月8日(日)、4月12日(日)、5月10日(日) 各日14:00開演

#### 同時開催

■第10回円空大賞展  
3月8日(日)まで 会場: 岐阜県美術館 展示室3

■清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2020 「記憶のゆくえ」  
4月18日(土)ー6月14日(日) 会場: 岐阜県美術館 展示室3、展示室4、多目的ホール、庭園、岐阜県図書館庭園

■アーティスト・イン・ミュージアム AiM2020 三輪祐子  
公開制作: 2月4日(火)ー3月1日(日) 作品展示: 3月3日(火)ー3月22日(日) 会場: 岐阜県美術館 アトリエ

#### 展 示

ポーランド在住「美濃・紙の芸術村」参加アーティストによる和紙の作品をご覧ください。

マルタ・ユゼフィーナ・ボジック  
Marta Józefina Bozyk



1998年クラフ美術アカデミーグラフィック学部にて修士号を取得。2001年、美濃・紙の芸術村事業の奨学生として美濃に滞在してから、紙に興味を持つ。2006年からクラフ美術アカデミー版画学部アシスタントプロフェッサーとして勤務。2013年博士号を取得。女性芸術家集団「グループ13」に所属。リノカット、木版画を主に制作。様々なアートプロジェクトの実行委員として国内外で活躍する。

マウゴジャータ・マルヴィーナ・ニェスポジエワナ  
Małgorzata Malwina Niespodziewana

1998年クラフ美術アカデミーグラフィック学部にて修士号を取得。2002年と2006年、美濃・紙の芸術村事業の奨学生として美濃に滞在。2007年博士号を取得。2013年からクラフ教育大学芸術学部アシスタント・プロフェッサーとして勤務。女性芸術家集団「グループ13」に所属。長年綴ってきた日記と、紙を素材にして、身体性を探求する作品を制作する。



エヴァ・ロシェック・ブシュコ  
Ewa Rosiek-Buszko



グリーブツェ生まれ。1979年、クラフ美術アカデミー内装学部卒業。教員。すき紙、織物、陶器、パステル画、水彩画作家。シロンスクの芸術家集団「プシェカズ(Przekaz)」に参加、展示の企画も行う。1979年からZPAP(ポーランド芸術家・造形家連盟)の会員。2003年、美濃・紙の芸術村事業の奨学生として美濃に滞在。連作の「ペーパー紙」をもとにして、すき紙の授業や講演を行っている。

#### 公 演

可児市文化創造センター(ala)での市民参加型「オーケストラで踊ろう!」で振付・演出した森下が市民ダンサーのひたむきな姿に心を打たれ「今度はソロで踊ってみよう」と心に決め、各楽章4名に振付を依頼。時代を牽引する彼らから、この、誰の心にも強烈な印象を放つ交響曲第5番「運命」を、一人のダンサーの身体を通し描きだす。ベートーヴェン生誕250周年にあたる2020年に、4年ぶりに「運命」が新たな形で岐阜に戻ってくる!



photo: RYO OHWADA

#### 〈振付〉



MIKIKO(第1楽章)  
演出振付家。ダンスカンパニー「ELEVENPLAY」主宰。Perfumeの振付・ライブ演出をはじめ、MV・CM・舞台等振付多数。新しいテクノロジーをエンターテインメントに昇華させる演出家として、メディアアートのシーンでも国内外で評価が高い。



森山未来(第2楽章)  
俳優・ダンサー。1984年、兵庫県出身。5歳から様々なジャンルのダンスを学び、15歳で本格的に舞台デビュー。舞台、映像、パフォーマンスなど、カテゴリーに縛られない表現者として活動。

#### 展 示 ・ シンポジウム

岐阜県内のアーティスト・イン・レジデンス施設を紹介し、また、会期中にそれぞれのレジデンス事業についてお話しいただきます。



#### ワークショップ

可児市文化創造センター(ala)の改修休館前の市民参加プロジェクトを担当したコンドルズ主宰の近藤良平が登場します。

#### 近藤良平

ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。コンドルズ主宰。平成28年度(第67回)文化庁芸術選奨文部科学大臣賞受賞。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。NHK教育「からだであそぼ」内「こんどうさんちのたいそう」、「かもしれないたいそう」、「あさだからだ!」内「こんどうさんとたいそう」、NHK総合「サラリーマンNEO」内「サラリーマン体操」などで振付出演。女子美術大学、立教大学などで非常勤講師としてダンスの指導もしている。



photo: HARU